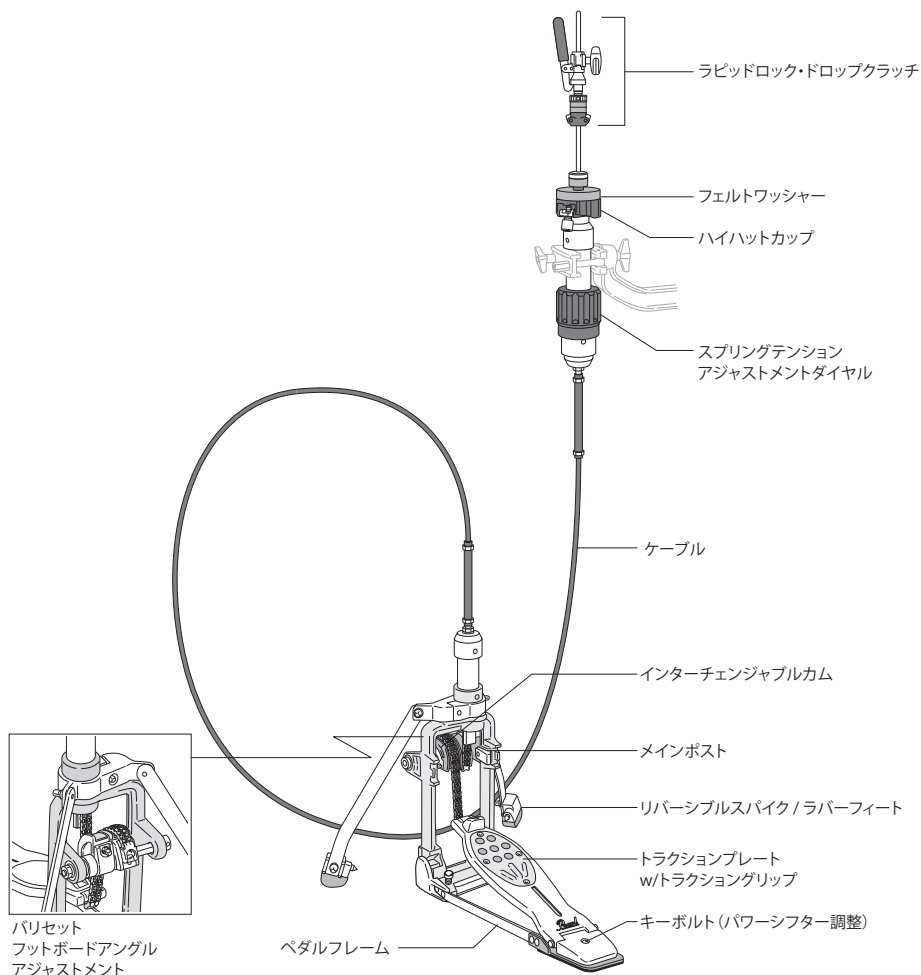


PEARL REMOTE HI-HAT

RH-2050

取扱説明書

この度は、RH-2050リモートハットをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
製品の機能を十分に発揮してお使いいただくために、この取扱説明書をぜひご覧ください。



脚部の組み立て

ペダルフレームを持ちながらメインポスト脇のキーボルトをゆるめます (図1-A)。

ゆるめることでフックが開きますので、ペダルフレームを矢印の方向に引っ張りドッキングステーションから離してください (図1-B)。

ペダルフレームをはずしたら、ノイズ防止のためキーボルトを締めてフックを閉じてください。

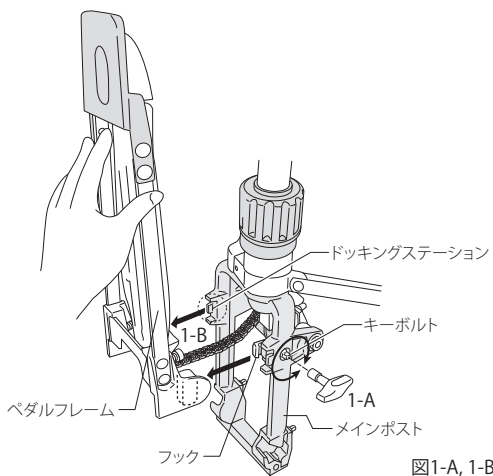


図1-A, 1-B

メインポスト下部の両側にあるキーボルトを十分にゆるめ、クランプを開きます (図2-A)。

ペダルフレーム先端のストラットエンドを開いたクランプに約45°の角度で奥まで差し込みます (図2-B)。

ストラットエンドを軸にしてフットボードのかかと部分をゆっくりと下ろします (図2-C)。

両側のキーボルトをしっかりと締めてクランプを閉じ、ストラットエンドを固定してください。

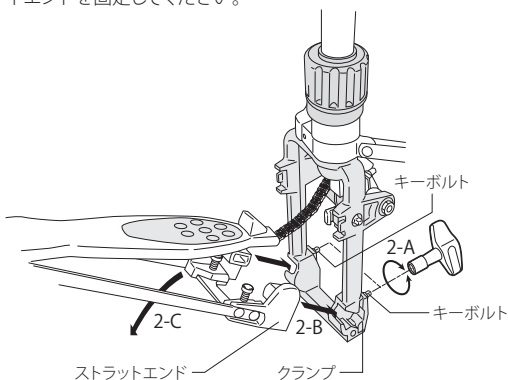


図2-A, 2-B, 2-C

レッグ調整

左右レッグの付け根にあるキーボルトをゆるめ、レッグを開きます。メインポストが垂直になるようレッグの角度を調節し、キーボルトをしっかりと締めてレッグを固定します (図3)。

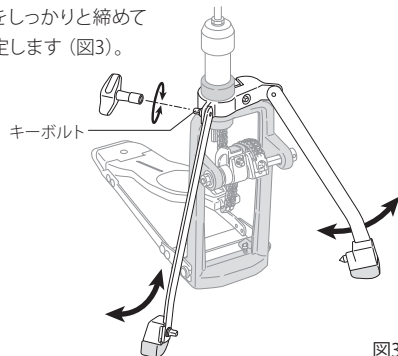


図3

スタンド本体は、ペダルフレームのかかと部分が接地した状態でメインポストと垂直になるようにセッティングしてください (図4)。

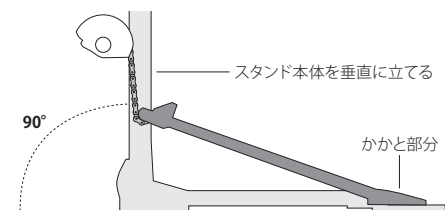


図4

注意

スタンドが傾いた状態での演奏は、安定を保てず危険です。

RH-2050のレッグはセッティングに応じて回転することができます。調整の際はキーボルトをゆるめて行い、調整が終わりましたらしっかりと締めてください (図5)。

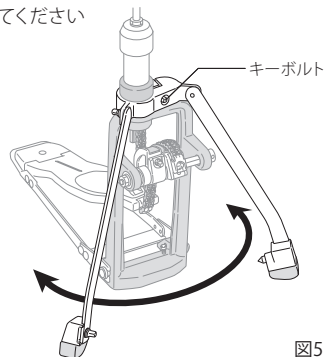


図5

注意

レッグを回転させる際は、ポジションによっては不安定になり倒れる可能性がありますのでご注意ください。

リバーシブルスパイク / ラバーフィート

RH-2050はスタンド本体のスリップ防止のためのスパイクを装備しています。スパイクを使用するにはキーボルトを十分にゆるめます。ラバーチップを回転しスパイクが下向きになったらキーボルトをしっかりと締めてください (図6)。

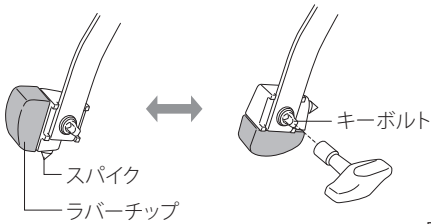


図6

注意

レッグ先端にスパイクを使う際は、床に傷がつくので、カーペット等を敷くことをおすすめします。また、スパイクは尖っているため、人を傷つける恐れがあります。取り扱いには十分気をつけてください。

上部の組み立て

RH-2050の上部をAX-25Lや UX-80 アダプターでセットに組み込みます (図7)。

※アダプターは別売りです。

注意

保持力を最大限に発揮させるため、アダプターの左右のナットは均等に締めてください。

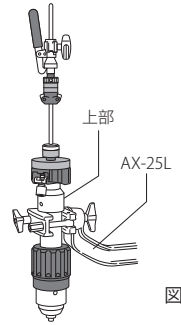


図7

ボトムシンバルをプルロッドに通してハイハットカップに乗せませす。フェルトワッシャーをその上に乗せ、ロックナットを締めて固定します (図8)。トップシンバルを取り付けるには、まずラピッドロックユニットの二つのボタンを押して本体から取り外します。二枚のフェルトワッシャーの間にトップシンバルをはさみ、ラピッドロックユニットを差し込みます。この時ラピッドロックユニットのボタンがカチッと鳴るまでしっかりと押し込まれていることをご確認ください (図8-A)。シンバルのしめ具合を調整するにはアジャストナットを回してください。トップシンバルを組み込んだドロップクラッチをプルロッドに差し込んでフットボードを踏み、上下シンバルに適当な間隔ができる位置で、ドロップクラッチのウイングナットをしめて固定してください。

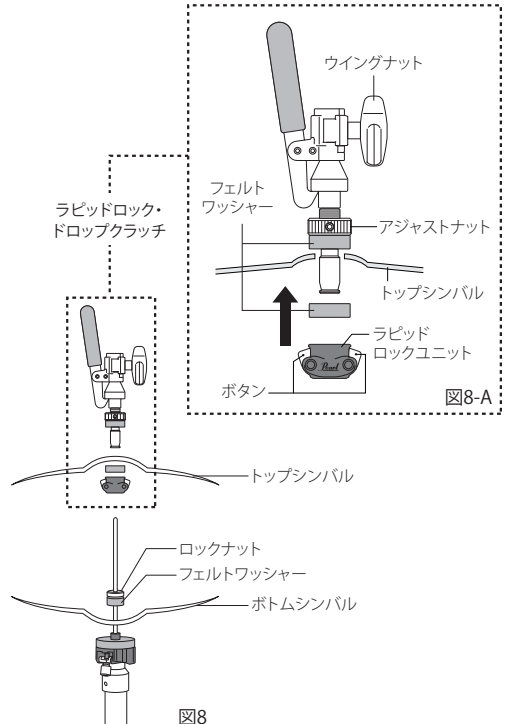


図8

アジャストナットの調整

アジャストナットは工場出荷時に演奏中緩まない程度の固さに調整されています。アジャストナットを完全に固定したい場合は付属の六角レンチでアレンスクリーをしっかりと締めてください(図9)。アレンスクリーのをめ具合を工場出荷の状態に戻すには、アレンスクリーがきつってしまった状態から90° 緩めてください。

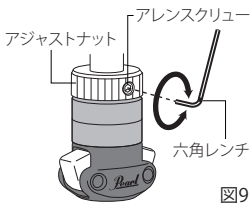


図9

注意

アジャストナットのアレンスクリーの締め過ぎは破損の原因となりますのでご注意ください。

ハイハットカップ角度調整

ノブを回してカップを傾けることで、シンバル間の空気のこもりを解消します(図10)。

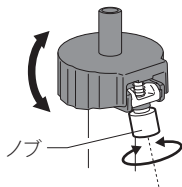


図10

ドロップクランチ機構

ドロップクランチはフットボードを踏まずにシンバルをクローズ状態にすることができます。レバーをスティック等で叩くことでロックが解除され、トップシンバルが落ちクローズの状態になります。フットボードをもう一回踏み込むことでレバーがロックされ、通常の奏法に戻すことができます(図11)。

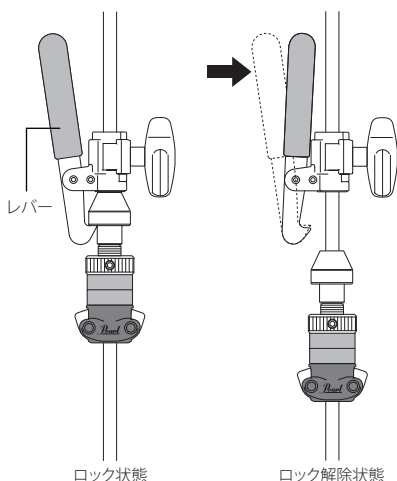


図11

フットボードアングルの調整

フットボードの角度調整には、幅広く自由に設定できるバリセットシステムを採用しています。左側のホイールに組み込まれたキーボルトをゆるめると無段階に調整ができます(図12)。また、右側ホイールのドライブコネクターのキーボルトをゆるめてスライドすれば3段階の調整が可能です(図13)。調整が終わりましたらキーボルトをしっかりと締めてください。

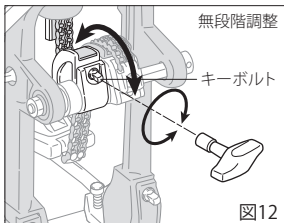


図12

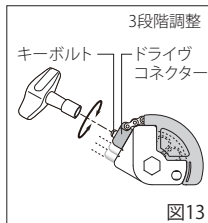


図13

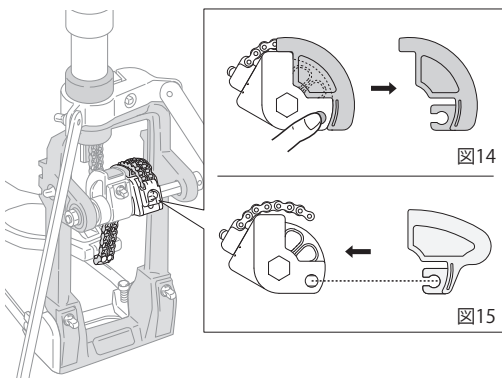
注意

フットボードアングルの極端に高く、あるいは低く設定すると、インターチェンジャブルカムの交換ボタンが引っ掛かってしまう場合があります。その際は、フットボードアングルのややもどしてから、カム交換を行なってください。

インターチェンジャブルカム







出荷時に装備されたブラックカムと付属の3つのカムの計4タイプのカムを自由に付け替えることによって、それぞれ異なるアクションのフィールが得られるシステムです。

カムを付け替えるには、ホイールのボタンを押しながらカムを矢印の方向に引き抜きます(図14)。新たに取り付けるカムはボタンと離れた状態でまっすぐはめ込んでください。その際、カムが正しく固定されたことを必ず確認してください(図15)。



注意

- カムを取り付ける際、無理に押し込むと破損します。正しく取り付ければぴったりと密着してホイールに収まりますので、カムの向きを調整してください。
- カムを取り外したまま使用しないでください。故障の原因となります。

付属品				オプション	
					
ブラック	ホワイト	ブルー	レッド	パープル	イエロー

ブラック : パールのオリジナルサイズの真円カムで、パワーがあり、素直でくせのないアクション。

ホワイト : ブラックカムをひとまわり大きくした真円のカムで、全体的に軽めアクション。

ブルー : 回転軸が中心からずれたカム(偏芯カム)で、踏み始めは軽く徐々にスピードが加速していくアクション。

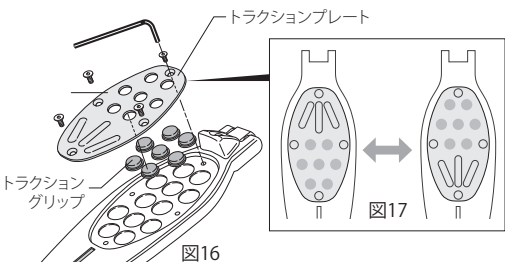
レッド : 回転軸が中心からずれたカム(偏芯カム)で、細かいフットワークに応えるトラディショナルなアクション。

パープル : レッドカムのスピードと、ブルーカムのパワーをバランス良く取り入れたアクション。(オプション)

イエロー : ダイレクトドライブの独特な感触を再現した、高速プレイを追及するドラマーに最適なアクション。(オプション)

トラクションプレート / トラクショングリップの設定

フットボードに埋め込まれたトラクショングリップは、個別にとりはずすことでフットボード表面の滑り具合を微調整することができます。トラクショングリップをはずすには、付属の六角レンチでトラクションプレートのネジをはずしてください。お好みのセッティングになりましたらトラクションプレートに戻して、ネジをしっかりと締めなおしてください(図16)。また、トラクションプレートは上下逆に取付けすることもできます(図17)。

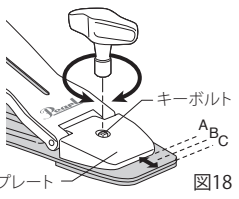


注意
 トラクションプレートの4本のネジは必ず均等に締めてください。片締めをして無理にネジを締めると、プレート、ネジ、さらにはフットボードを破損するおそれがあります。
 また、4本のネジは常に点検し、ゆるんだら六角レンチで締めてください。トラクションプレートを取りはずした状態のままでは絶対に使用しないでください。ケガをする恐れがあります。

パワーシフターの調整

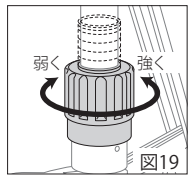
フットボードを前後にスライドさせることで、3つの異なるアクションを設定することができるシステムです。工場出荷時はBの位置で設定されています。A、Cの位置に変えるにはヒールプレートのキーボルトをゆるめ、お好みの位置にフットボードをずらしてください。設定が決まりましたらキーボルトをしっかりと締めなおしてください(図18)。

- A: 踏み込んだパワーがダイレクトに伝わる、踏みごたえのあるポジション。
- B: 素直なアクションが得られるノーマルポジション。
- C: スピーディーなフットワークに対応するポジション。



スプリングのテンション調整

スプリングのテンションはダイヤルを回すことで調整できます。段階的に調整することでテンションのゆるみが防止される機構になっています(図19)。



ペダルフレームの収納

収納、運搬の際にはペダルフレームをメインポストのドッキングステーションに取り付けてください。まず、メインポスト下部の両側にあるキーボルトを十分にゆるめクランプを開き、ペダルフレームをメインポストからはずします。次にメインポスト脇のキーボルトをゆるめフックを開きます。ペダルフレーム先端のストラットエンドにある四角形の穴と、ドッキングステーションの四角形の突起の位置を合わせて、ペダルフレームを差し込みます。この時、ペダルフレームを平行に差し込むように注意してください(図20)。

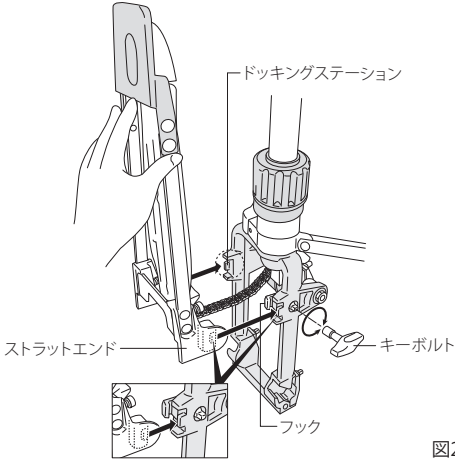


図20

ストラットエンドをドッキングステーションの奥まで差し込んだら、メインポスト脇のキーボルトを締めフックを固定します。この時、フック先端のツメがストラットエンドにしっかりと収まっていることをご確認ください(図21)。

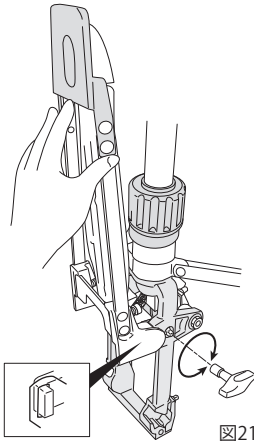


図21

注意

フックのツメが収まっていない状態で、無理にキーボルトを締めないでください。破損の恐れがあります。

不慮の脱落を防ぐためペダルフレームには手を添えてください。

注意

<各部の組み立てについて>

セッティングに慣れていないうちは、脚部全体を床に寝かし、メインポストにペダルフレームを差し込む方法もお試しください。

<ケーブルセッティング>

RH-2050のケーブルはデリケートにできていますので、無理に曲げたりすると損傷する恐れがあります。ケーブルに負担のかからないようご注意ください。また、ブルロッドは回転させるとケーブルが損傷する恐れがあります。テンションが弱い場合、トップシンバルの重量によってはケーブルにアソビが生じる場合があります。その際には、スプリングテンションアジャストメントダイヤルで調整してください。

<演奏後の注意>

演奏後は、当マニュアルの『脚部の組み立て』の項目を参照し、逆の手順で各部をばらしてください。収納、あるいは運搬の際には、付属のバッグでフットボードを包み込み、たたんだレッグとともにメインポストにあてがいがながら、付属のベルトでくりつけてください。

<潤滑油の供給>

チェーン、カムローラー、フットボードヒンジなどの可動部分には時おり注油(グリス等)してください。また、ベアリングへの注油に、粘性の低い潤滑油のご使用はお控えください。

<ネジの点検>

アレンスクリューやキーボルトは振動でゆるむ場合がありますので、演奏前に十分に締めておいてください。また、その他のボルト、ナットも必ず点検し、十分に締めてからお使いください。

アレンスクリューがゆるんだ場合には、付属の六角レンチで締め直してください。

Pearl

パール楽器製造株式会社

〒276-0034 千葉県八千代市八千代台西10-2-1

電話：047-484-9111 (代表)

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田593-1

電話：047-450-1090 (テクニカルサポート)

<http://www.pearlgakki.com>

製品改良のため予告なくデザイン・仕様を変更する場合がありますので御了承下さい。

Printed in China

-1610-